

第35回（令和4年度）

「国際交流・国際理解のための小中学生による作文コンクール」

入 選 作 品 集



令和4年12月

公益財団法人小佐野記念財団

優

秀

賞

中学生の部 優秀賞

「戦争の根源とは」

中央市立田富中学校 1年 豊嶋 千里

「国際理解」と聞いて私が真っ先に思いかべるのは、ロシアとウクライナの間で起こっている戦争の事です。テレビのニュースで戦争のことを目にするたびに、「どうして無意味なことをするのだろう。」ととても悲しくなります。

そこで二つの国が戦争している原因を、私なりに考えてみました。インターネットで調べてみると、ロシアもウクライナももとは一つの国だったということが分かりました。数十年前に二つの国に分かれてからも人の行き来は盛んで、文化や生活の様子など共通点も多いようでした。きっとどちらの国の人も「今の暮らしを良くしたい」「幸せになりたい」という願いは一緒だったのではないかと思います。でも「どう幸せになるか」「どう平和を保つか」の考え方は大きく違っていた、それがこの戦争の原因ではないかと考えました。

そんな時、インターネットである人のスピーチを目にしました。それは史上最年少でノーベル平和賞を受賞した、マララ・ユスフザイさんのスピーチです。彼女はスピーチの中で何度も「教育の大切さ」を訴えていました。私はそのスピーチを聞いて、まさにいま起こっている戦争をなくすヒントだと思いました。教育とは知ること、身のまわりのことだけでなく、広く世界を知ること、人には色々な考え方があることが分かってくるはずで、そうすれば、何か問題が起きた時に、すぐに「戦争」という方法を選ぶのではなく、みんなにとって平和で幸せな、より良い解決方法を考えて選んでいけるのではないかと思います。

私は今、クラスの学級会長として活動しています。クラスの話し合いでは、自分では思いつかないような意見がたくさん出て来てどうまとめたらいいか迷うことがあります。でもそういう時こそ「こうでなければ」という自分の思い込みは捨てて、みんなの意見を広く聞くことが大切だと思ふようになりました。たくさんを知り、広い視野をもってみんなの意見を聞くことできっとより良い解決の方法が見つかると思います。

私には、今起こっている戦争を止められるような力はありませんが、色々なことを学んで世界の国々について知ること、互いの意見を尊重し合いながら生活していける世の中にしていきたいです。そのためには、自分にできることから少しずつ努力していきたいです。

佳 作

中学生の部 佳作

「国際交流について」

甲府市立南西中学校 3年 佐々木 蓮

ここ数年、新聞や各種メディアを通して国際交流という言葉を使った記事が多く取り上げられるようになったと思います。ぼくは、国際交流とはどういうことなのか調べてみました。

国際交流といのは、他国の人と交流することでお互いの国について知ること、またはそのための活動を指す言葉です。なぜ多くの記事に取り上げられるのでしょうか？それは、日本が本当に開かれた社会として世界に認められるためには、国際交流を通じて世界にアピールしていく必要があるからだと思います。ですが、国同士の交流ではその交流に携わる人たちが国レベルの関係者に限られ、ほとんどの国民は実際に交流することができないでしょう。地方自治体主導で進められる交流は、市民を主体とした体験型交流を進めることによって、様々な国の文化に実際にふれることを目的としています。

甲府市でも、毎年市内の中学生対象にデモイン派遣研修を行っていました。ここ三年は新型コロナウイルスの流行により中止になってしまいましたが、国際交流のよい取り組みだと思っています。

ぼくは、小学6年生のときに、家族旅行でマレーシアに行きました。日本と違った文化をたくさん体験したいと思い、地方の方々が行くような屋台で食事をしたり、スーパーで買い物したりしました。一番心に残っているのは、ストリートチルドレンに会ったことです。街なかの路上や買い物に行った市場など色々な場所で幼い子供がぼくたち家族を見つけるとじっと見つめ続け、後をついてきました。こういった子供達を目の前にして、何をしてあげるのがいいのか、ずっと考えてしまいました。

ぼくは、日本以外の色々な国のことを知りたくなりました。相手を理解し交流したいと思う気持ちを持つことが、国際交流には大切なのではないのでしょうか。

交流するためには、言葉が重要な基本的道具です。しかし、コミュニケーションの方法は言葉だけではありません。言葉以外にも、振る舞いや表情、声の調子など、様々な能力を駆使して他者と通じ合うことができます。実際、マレーシアのレストランでは、ぼくはゼスチャーで店員さんと話すことができました。

ぼくはこれから、国際交流のイベントなどにも積極的に参加してみたいです。よりスムーズにコミュニケーションが図れるように英語を頑張ろうと思います。また、日本の文化について学ぶことが必要だと思います。

「国際交流」は国際文化を学ぶこと、それは「新しい自分に出会う」ことでもあるのかもしれません。

「私の夢」

甲府市立富竹中学校 1年 辻 百花

私には、将来の夢があります。それは、日本語教師になることです。この夢を持つようになったのには、いくつかのきっかけがありました。

まず一つ目のきっかけは、リサという友達に出会ったことです。彼女は、オランダに住んでおり、オランダが夏休みの間、親せきのいるこの地域で過ごしていました。小学生時代は、一、二週間程度、一緒に登校し、勉強していました。リサは、難しい日本語が分からないため、授業で分からないことがあるときは、先生やまわりの友達が教えていました。そこで教えるときも、日本人の友達に教えるときは違うことを意識して、より簡単に伝えられるようにしていました。そのときに、外国の方に日本語を教えたり、説明したりすることの難しさを知り、それと同時に、伝わったときの喜びと達成感を知りました。

この当時は日本語教師という職業を知らなかったものの、人に教えることを仕事にしたいと思うようになりました。

もう一つのきっかけは、勝村先生の話を書いたことです。私が小学五年生のときに、一年間お世話になった勝村先生が日本語教師になるために、小学校の教師をやめました。私は、いつも分かりやすく教えてくださる勝村先生が好きだったので、悲しい気持ちがありながらも、日本語教師という職業に興味を持ちました。日本語教師について調べていくと、私がリサに日本語を教えるときに思っていたことを、そのまま仕事にできることに驚きました。このときから、私は、日本語教師を目指すようになりました。

私は、この二つのきっかけを中心に、たくさんのきっかけによって、日本語教師になることが将来の夢になりました。

日本語教師は、ふつうの教師とは違い、相手が外国の大人の方です。国せきが違うことで、言語はもちろん、文化も違います。その点で難しいことがあると分かっています。ただ、文化が違う外国の方と関わることで、今まで知らなかったものごとの見方をすることができると思います。

私は、たまたま、オランダに住む友達がいて、日本語教師を目指す先生がいたことで、外国に興味を持ち、夢を見つけることができました。これから先、まだまだ新しいことに出会うと思います。ただ、どんなことに興味を持ったとしても、たくさんの人と関わること、世の中を広く見ること、国内外関係なく人と接することを忘れない大人になりたいです。

「偏見の目を向けずに」

中央市立田富中学校 1年 高野 結意

みなさんは、だれかの事を良く知りもせず人をこうだと決めつけた事はあるでしょうか。また、それによって人を差別した事はあるでしょうか。近年、日本国内では、障害者や在留外国人が増加しています。その様な中、つい偏見の目で見ってしまう人が中にはいるかもしれません。実際、私は知ろうとせず、人を偏見の目で見ってしまった事があります。

私はこれまで中国は、自分勝手に日本人を嫌っているイメージでいてしまっていました。それは、テレビなどで得られる情報からです。そんな中、中国の都江堰中学校と私の通う中学校の、オンラインでの交流会がありました。これは、今から約三十年前からこの二つの学校を、友好国際交流学校とし、友好関係を作ってきたそうです。私は吹奏楽部なので、都江堰中に向け演奏をひろうしました。都江堰中の方でも色々なパフォーマンスがあり、どれも素晴らしかったです。そこで気付いたのが、中国にも素敵な人がいるんだ。という事です。これまで良く知らないまま、嫌なイメージを持っていたんだと後悔しました。テレビを見ていても、優しい人はいるんだ。と気付かされた事もありました。このように、最近は情報が発達し家庭に一台はテレビ、大人はだれでも持っているようなスマホがあります。それで、短い時間で大勢の人へ情報が伝わり、便利な社会になってきました。でも、良い情報もそうではありますが、悪い情報も短い時間で大勢の人に伝わるようになってしまいました。情報、ニュースになるものはほとんどが国の外側です。特に、その国の政治家など、ニュースに取り上げられやすいと思います。すると国全体、悪い印象がついてしまいます。そうすると、その国の国民による良いところの内側を知ることができません。内側を知らないと、その国と上手くつき合うことができないと思います。情報では分からない内側で交流しないと、その国の内面が分かりません。世界は広く情報があふれています。なのでどこかで日本の事を悪く思っている人達がいるかもしれません。そう考えると悲しくなります。そこで私が考えたのは、色々な国の国民が少人数ずつ集まり自国の内側の良いところを紹介し合う機会を設ける事です。それにより、それぞれ他国の内側の良いところが分かりそれが大勢の人に伝われば友好的交流ができると思います。出来なくても、悪い印象になってしまった国を日頃、分かりにくい内側があることを意識し、調べてみたら良いと思います。

このように、簡単に得られる外側の情報に縛られず、自分で実際に会ったり見たりしないと、内側が分かりません。知りもせず、印象だけで決めつけ偏見の目を向けるのはせず、色々な国の内側をしっかりと知ってほしいです。そして、友好関係を築いていってほしいです。

第35回（令和4年度）
「国際交流・国際理解のための小中学生による作文コンクール」
優 秀 作 品 集

令和4年12月 発行

発行者：公益財団法人小佐野記念財団
山梨県甲府市丸の内一丁目6-1
(山梨県知事政策局国際戦略グループ内)
TEL055(223)1435